

佐賀県の地震活動概況（2025 年 4 月）

令和 7 年 5 月 13 日
佐賀地方気象台

【4 月の地震活動概況】

4 月に佐賀県内で震度 1 以上を観測した地震は 1 回（下図領域外）でした（3 月は 2 回）。

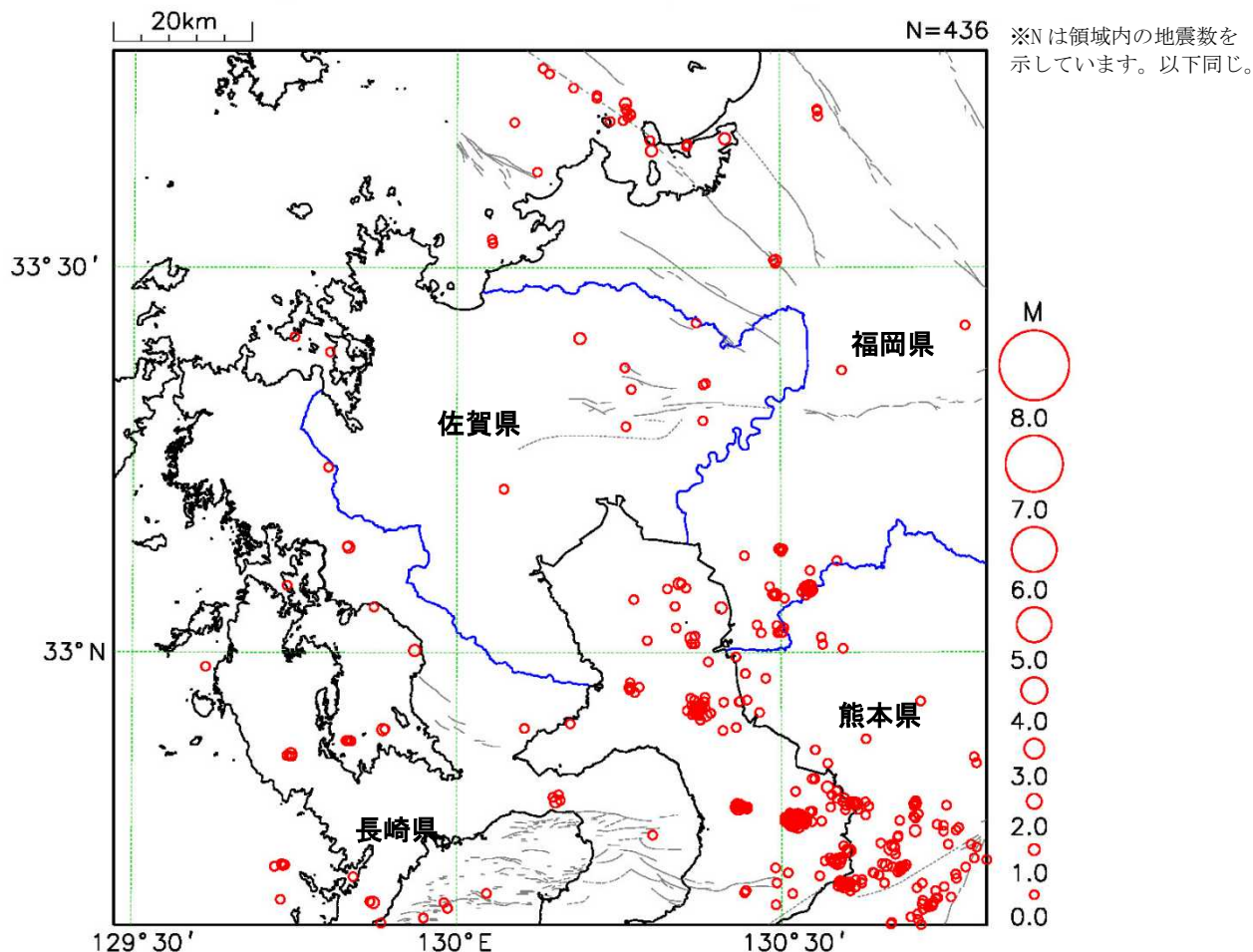


図 1 震央分布図（2025 年 4 月 1 日～30 日、深さ 30km 以浅、 $M \geq 0.0$ ）
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

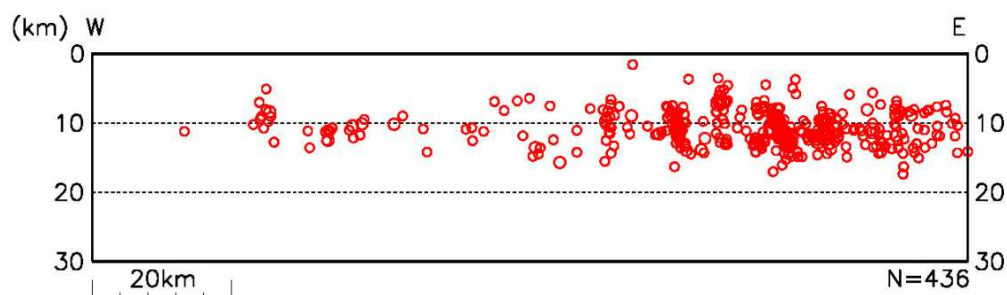


図 2 断面図（2025 年 4 月 1 日～30 日、深さ 30km 以浅）
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

大隅半島東方沖（1 頁震央分布図領域外）

2 日 23 時 03 分に大隅半島東方沖で M6.1 の地震（深さ 36km）が発生し、鹿児島県鹿屋市、宮崎県宮崎市などで震度 4 を観測したほか、九州地方、中国地方、四国地方で震度 3～1 を観測しました。佐賀県では、神埼市で震度 3 を観測したほか、県南部で震度 2～1 を観測しました（図 3、表 1）。

今回の地震の震源付近（図 5 領域 b）では、2022 年 10 月 2 日に M5.9 の地震（深さ 29km、最大震度 5 弱）が発生し、佐賀県では佐賀市、神埼市などで震度 3 を観測したほか、県南部を中心に震度 2～1 を観測しました（図 4～図 6）。

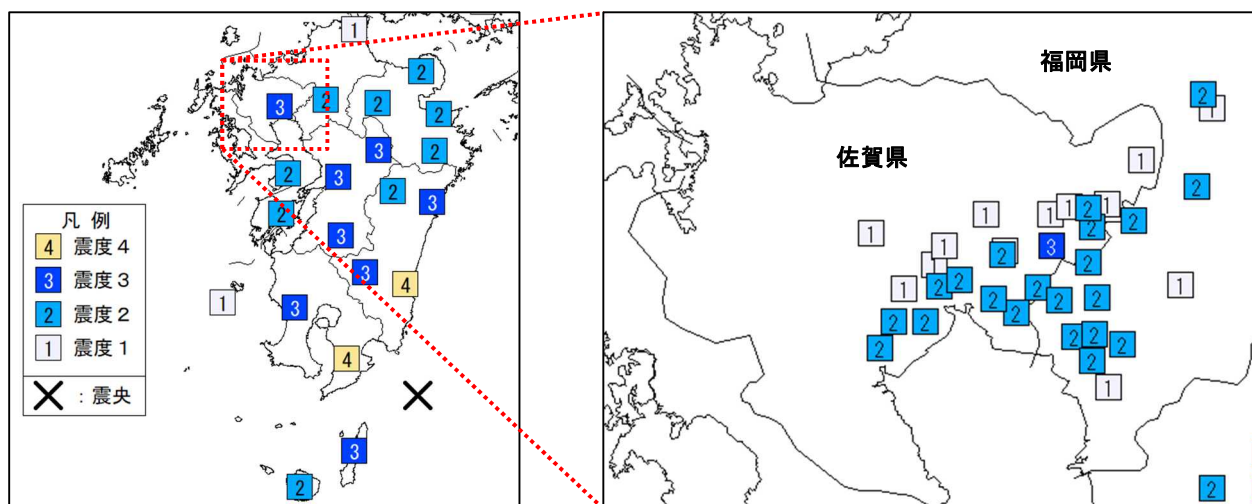


図 3 震度分布図 2 日 23 時 03 分 M6.1
(左図は地域別、右図は観測点別)

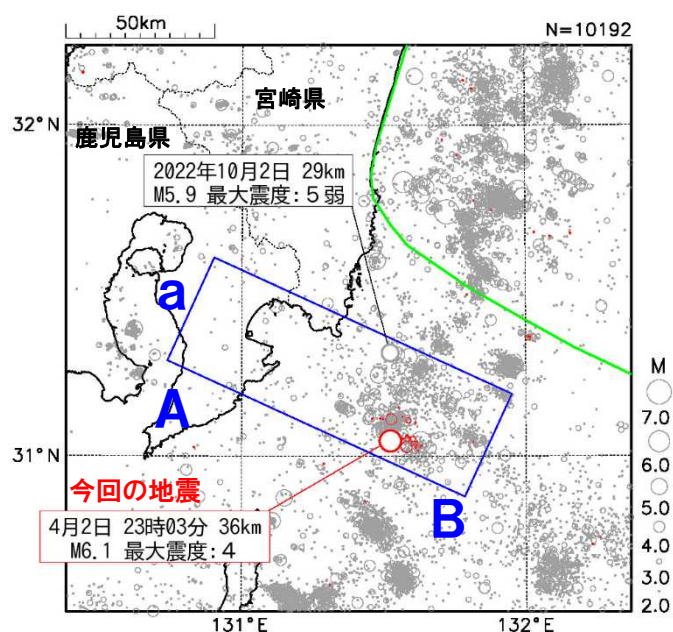


図 4 震央分布図

(1997 年 10 月 1 日～2025 年 4 月 30 日、
深さ 0～100km M $\geq$ 2.0)

※2025 年 4 月 1 日以降の地震を赤色で表示

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

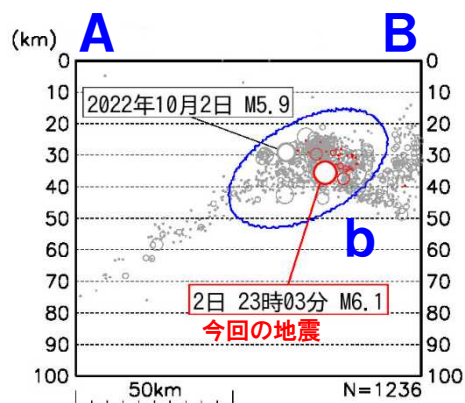


図 5 図 4 領域 a 内の断面図（A—B 投影）

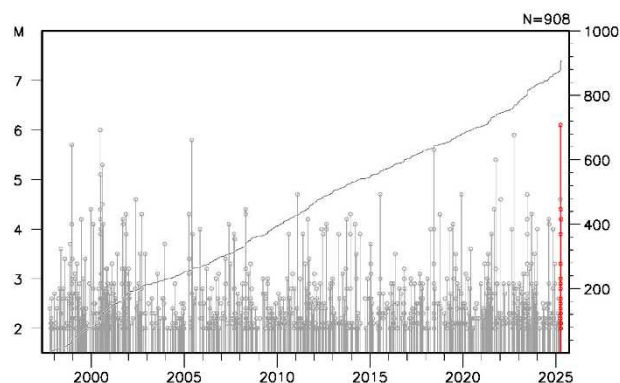


図 6 図 5 領域 b の地震活動経過図
および回数積算図

表 1 佐賀県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震 (2025 年 4 月 1 日～30 日)

地震発生日時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
04 月 02 日 23 時 03 分	大隅半島東方沖	31 ° 02.7' N	131 ° 31.3' E	36km	M6.1
佐賀県	震度 3 : 神崎市千代田＊				
	震度 2 : 佐賀市栄町＊, 佐賀市東与賀＊, 佐賀市久保田＊, 佐賀市諸富＊, 佐賀市川副＊ 上峰町坊所＊, 白石町福田＊, 白石町福富＊, 白石町有明＊, みやき町三根＊ 小城市芦刈＊				
	震度 1 : 佐賀市駅前中央, 佐賀市大和＊, 鳥栖市宿町＊, 多久市北多久町＊, 江北町山口＊ みやき町北茂安＊, 小城市三日月＊, 小城市牛津＊, 吉野ヶ里町三田川＊ 神崎市神埼＊				

- ・「＊」の付いた地点は、佐賀県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。
- ・地震の震源要素（緯度・経度・深さ・M）は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

地震資料に掲載される図の見方

佐賀地方気象台では、地方公共団体等による日頃の災害予防の活動を支援するため、九州・山口県内の地震活動の状況として「月間地震概況」、「佐賀県の地震活動概況」等の資料を定期的に作成・公表しています。また、九州・山口県で震度4以上の揺れを観測した場合や津波警報等を発表した場合には、防災対応に資するために「地震解説資料」を公表しています。

今回は、「平成28年(2016年)熊本地震」を例として、これらの資料に掲載される主な図の見方について解説します。

1. 震度分布図(図1)

震度分布図は、各地の震度観測点で観測した震度を地図上に表示し、地震による揺れの強さや範囲を表現したものです。震度5と震度6にはそれぞれ強弱があり、例えば震度6強は「6+」、震度6弱は「6-」と表示します。また、地震による揺れが広範囲にわたる場合には、図が煩雑にならないように、各地域内、各市区町村内で観測した震度の中で最も大きな震度を代表させて表示することがあります(図1は地域別の震度分布図の例)。

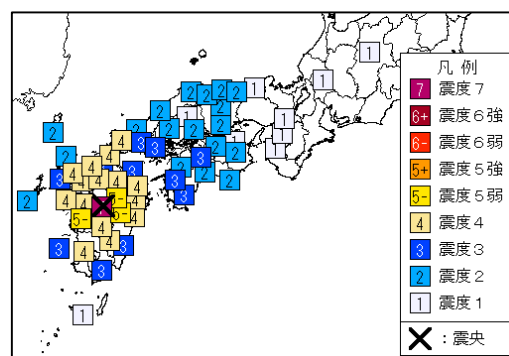


図1 震度分布図(地域別)

2. 震央分布図(図2)、断面図(図3)

震央分布図は、地震が発生した場所を地図上に表示し、地震活動の面的な広がりや表現したものです。表示するシンボルの大きさを変えることで、地震の規模(マグニチュード、以下、「M」)を表現しています。なお、地震の発生した深さをシンボルの形を変えて表現する場合もあります。また、断面図により地震活動の立体的な広がりを表現します。図3は、図2の中の青線で区切られた領域を南東方向から見た断面図です。この断面図を見ると、深さ20kmよりも浅い所で地震が発生していることが分かります。

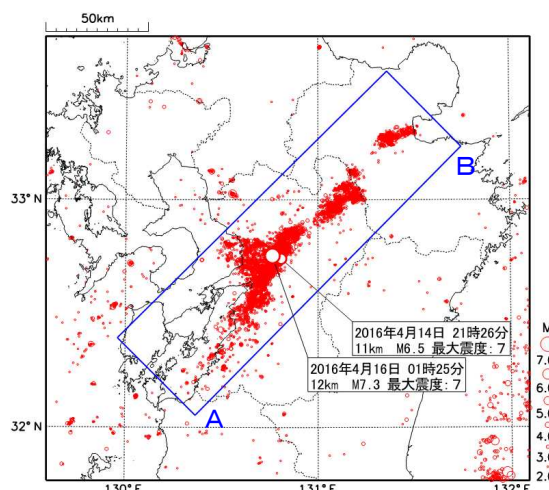


図2 震央分布図

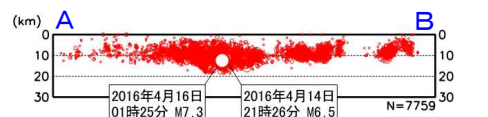


図3 断面図(A-B投影)

3. 地震活動経過図と回数積算図(図4)

地震活動経過図と回数積算図は、ある領域内で発生した地震の規模や数(回数積算)について、時間の経過に伴う変化を表現したもので、横軸に時間、縦軸に規模や数(回数積算)を表しています。

図4は、図2の中の青枠で区切られた領域内の地震活動経過図と回数積算図です。この図を見ると、2016年4月16日にM7.3の地震が発生した後、時間の経過とともに発生した地震の規模が小さくなり、その数も徐々に減少していますが、活動は継続していることが分かります。

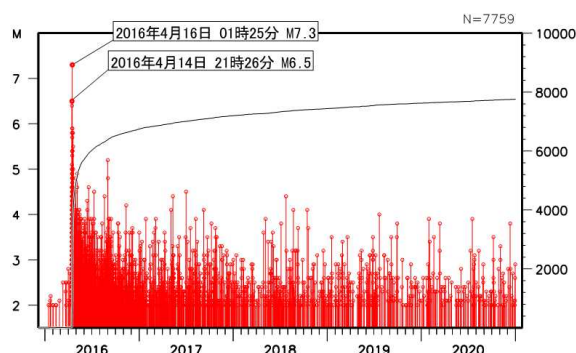


図4 地震活動経過図及び回数積算図